

研究紀要

# くらしをひらく子ども

— より豊かな学びの姿を求めて —

2000

島根大学教育学部附属小学校

# 谷川さんの詩に教わったこと

## —序にかえて—

入学式のとき、私は、新入生へのプレゼントとして、つぎの詩を朗読しました。

かえるのびょん            たにかわ   しゅんたろう

かえるのびょん／とぶのがだいすき  
はじめにかあさんとびこえて／それからとうさんとびこえる  
びょん

かえるのびょん／とぶのがだいすき  
つぎにはじどうしゃとびこえて／しんかんせんもとびこえる  
びょん   びょん

かえるのびょん／とぶのがだいすき  
とんでるひこうきとびこえて／ついでにおひさまとびこえる  
びょん   びょん   びょん

かえるのびょん／とぶのがだいすき  
とうとう、きょうをとびこえて／あしたのほうへきえちゃった  
びょん   びょん   びょん   びょん

この詩の世界を、子どもたちは大いに楽しんでくれました。

10年ほど前、私はこの詩を国語教科書に採用しました。しかし、当時、現場の先生がたはこの詩に対して否定的でした。朗読・群読・暗唱などの音声言語教育が今日のように話題になる以前のことで、内容が飛躍し過ぎている。リアリティがない、といった批判です。でも、子どもたちは圧倒的に支持してくれました。今では代表的な音声言語教材になっています。

私は、この詩に、いろんなことを教わってきました。教材とは何だろう。私の教育学でいうと、どこかに異化（日常の非日常化）の視点をもってないと、いい教材にはならないということ。かえるって誰だろう。子どもたちは、かえるのあくなき追求に夢中になります。自分に内在する可能性を直感するからではないでしょうか。また、この詩は、すぐれた学習活動の典型のようにも見えます。かえるは一連、二連、三連と、飛ぶごとに自信をつけていって、とうとう明日の世界に消えていく。子どもたちが自分の力で、たくましく追求する学習の姿でもあります。谷川さんの詩は、このような教材の力ということを考えさせてくれます。

昭和22年にはじまった本校の研究発表会は、今年で48回になります。平成5年度からは「くらしをひらく子ども」というテーマで研究・実践を続けてきました。今年度は、「くらしをひらく子ども一より豊かな学びの姿を求めて」の2年次です。総合的な学習を取り入れた「ちどりいきいきタイム」の授業を公開します。「ちどりいきいきタイム」は本校の開発した独自の学習活動です。ご参会の先生がたとの交流によって、新しい教育のありかたを追求する2日間になることを願っています。

平成12年6月8日

学校長 足立悦男

# 目 次

谷川さんの詩に教わったこと .....	学校長 足立悦男
－序にかえて－	
I 暮らしをひらく子ども .....	5
－より豊かな学びの姿を求めて－	
II 各学年におけるちどりにいきいきタイムの実践	
1 年 ぼくの、わたしの〇〇を見つけよう ～がっこうたんけん～ .....	13
たんけん・はっけん ぼくの わたしの がっこう .....	17
2 年 おじいちゃんやおばあちゃんのわざにちょうせん！ .....	21
学校まわりの〇〇マップをつくろう .....	25
3 年 伝統芸能に挑戦～〇〇〇名人をめざせ～ .....	29
めざせ！ つけものはかせ .....	33
3年2組 発 すきさ地球 .....	37
4 年 4年1組の自然博物館をつくろう .....	41
藤田先生・真田のおばちゃんと出会えてよかった .....	45
広場に集まれ 〇〇遊び！ .....	49

5	年	ふるさと松江再発見	53
		みんなのスポーツ ～グランドソフトボール～	59
		売ってみたいな ～ふじだなマーケット～	63
6	年	身の回りの植物を見つめて～植物ゲームづくりを通して～	67
		ようこそ わたしたちの附小へ！	71
		안녕하세요 푸산의友だち！	75
複	式	複式なかよし活動の実践から	79
		ありがとう あおばの6年生	81
		ここがおすすめ松江の〇〇	85
		あおばのお店で楽しもう	89

### Ⅲ. 「全校活動」・「ちどりの日」の取り組み

	全校活動の取り組み～「ディスカバー松江」を中心にして～	93
	「ちどりの日」の活動から	97

#### IV. 教科における授業の構想と実践

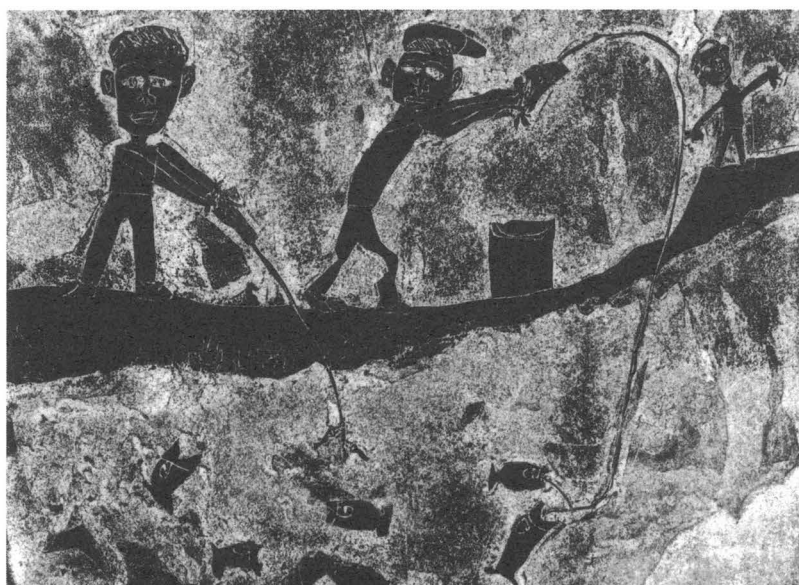
国語科	表現の価値を追求する国語科学習	101
	— 言葉の再自覚化を深めるために —	
社会科	子どもが自分のくらしに問いかける社会科学習	106
算数科	数理を追求する楽しさを感じる学習	111
理科	子どもが自ら自然を探究していく理科学習	116
	— 多様性が生きる問題解決 —	
音楽科	子どもが感じたことを豊かに表現していく学習	121
	— 一人ひとりの創造力を高めていくために —	
図画工作科	自分の表し方を楽しみながら追求する図画工作科学習	126
家庭科	子どもが自らくらしを豊かに創っていく家庭科学習	131
体育科	子どもが運動の楽しさを追求する体育学習	136
特殊教育	友だちと関わりながら生き生きと活動する子ども	141
	～個が生きる，集団が活きる授業～	
保健	子どもをのこころを理解するために	155
	— 養護教諭として関わった教育相談 —	
おわりに	副校長 花谷 耕三	

研究同人

# I 総論

## くらしをひらく子ども

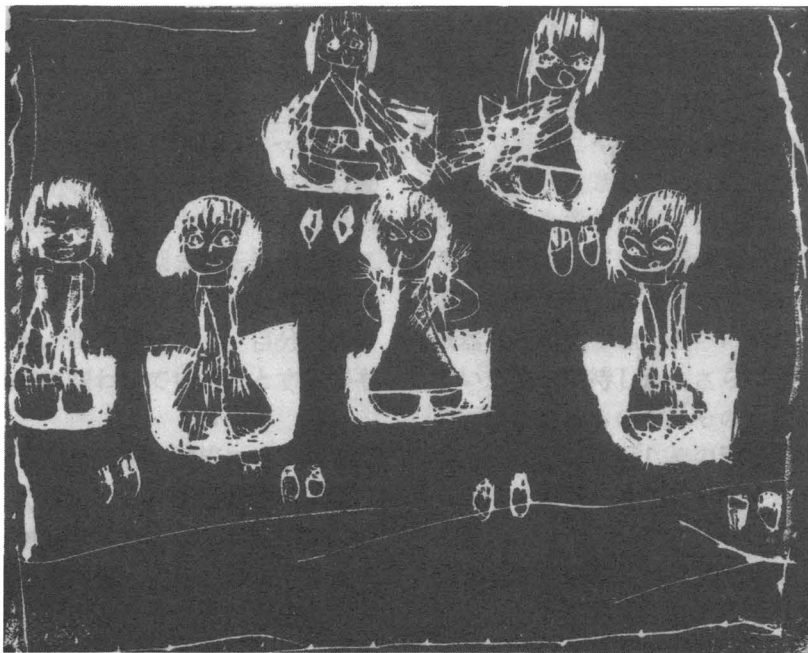
—より豊かな学びの姿を求めて—



「複式ゴズつり大会」

4年 福島 悠

## II 各学年における ちどりいきいきタイムの実践



「ちどりいきいきタイムで  
ぜにだいこ名人になったよ」 2年 はやせあやか

### Ⅲ 「全校活動」・

### 「ちどりの日」の取り組み





## お わ り に

「くらしをひらく子ども」を研究主題に掲げて8年目。この間、私たちは、自らの思いや願い、考えで主体的に行動できる子ども、豊かな人間性をもった子ども、くらしの基盤を豊かなものにしながら、自らの力でくらしをひらく子どもの育成をめざして研究実践を積み重ねて参りました。

こうした研究を通して、ここ数年、体験的活動がとても重要であることが分かってきました。このため、本校の子どもたちにとって、どのような体験的活動が必要であるのか、その活動の流れをどう具現化すればよいのかなどを検討してきましたが、その中で生まれたのが「ちどりのいきいき活動」や「ちどりのいきいきタイム」でした。私たちは、体験を「自然体験」「社会生活体験」そして「文化理解・創造体験」に整理するとともに、これらの指導のあり方を具体的に検討したり、体験の意義やそこで培われる態度や資質、能力にも着目してきました。

昨年度からは、こうした研究の経緯を踏まえながら、「より豊かな学びの姿を求めて」をサブテーマに「ちどりのいきいきタイム」の授業を構想、実践し、ここで見られるより豊かな学びの姿を具体的な子どもの姿として捉えることに努めて参りました。

次は、私たちの実践を通して見られた子どもたちの「より豊かな学びの姿」の一端です。

- 活動に興味、関心をもち、積極的に参加したり、グループの仲間と協力して活動に取り組んだりする姿
- 子ども自ら気付くとともに、活動に思いをもったり、身のまわりの自然や環境、社会に目を向けたりする姿
- 自分の目と耳で見つけ、確かめようとする姿や、自分にとって必要な情報を調べようとする姿
- 人と積極的に関わり、その関わりを深めようとする姿や、自分の思いを家族や教師に伝えようとする姿
- 集団の中で、自分のもっている力を発揮しようとする姿や、自分にまかされた役割を積極的に果たそうとする姿
- 友だちの工夫を自分の活動に取り入れようとする姿や、他の人の力を求め、自己実現しようとする姿

私たちは、こうした子どもたちのより豊かな学びの姿の背景にある「授業（活動）の枠組み」と「はたらきかけ」にも目を向け、これらを明らかにすることにも努めてきました。

この研究紀要は、昨年度のサブテーマのもとに、より豊かな学びの具体的な子どもの姿や、その背景についてまとめたものです。私たちの願いと提案を受け止めていただければ大変嬉しく思います。

今年度は、「ちどりのいきいきタイム」の授業実践を一層推進する一方、「ちどりのいきいき活動」の全体構造を明らかにしていくとともに、より豊かな学びの姿を生み出した背景を、各教科の指導にどう生かしていくのかなどの課題にも取り組んでいきたいと考えているところです。

今年度も私たちの研究に対する考え方や実践を提案、報告いたします。ご参会の諸先生方と共に語る中で、忌憚のないご意見、ご批判をいただき、本研究をさらに深めていきたいと願っています。今後とも本校の研究に温かいご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

終わりにになりましたが、この度全体講師として茨城大学教育学部助教授藤井千春先生をお招きし、ご講演を賜りますことに対し、厚くお礼を申し上げます。

平成12年6月8日

副校長 花谷耕三

# 研究同人

(平成11年度・12年度)

学校長	山下晃功	足立悦男【平成12年度】
副校長	花谷耕三	
教頭	赤木直行	山崎敦史【平成12年度】
研修部長	和泉浩行	奥村忠孝【平成12年度】

1年	山崎敦史(算数・生活科) 新田 恵(社会専科)	瀧 哲朗(国語・生活科)
2年	梶谷朱美(体育・生活科)	奥村忠孝(社会・生活科)
3年	金築 亨(図工) 中沢昌彦(音楽専科)	常松 浩(算数) 高橋泰道(理科専科)
4年	和泉浩行(理科) 川角朋之(体育専科)	川上宜久(算数)
5年	昌子佳広(国語) 大野寛人(図工専科)	藏敷真吾(体育)
6年	原 啓一朗(理科) 赤木直行(社会専科)	平井早苗(家庭科)
複式	金山剛志(国語・生活科) 中村治子(音楽)	吉崎 朗(社会) 山本美幸(理科専科)
特殊教育	西島 博 山本 勉 常松 祐子	天野千里 道前 正
保健	倉石 美津子	

【平成12年度】

勝田 慎司(特殊教育)	福間 敏之(社会)
伊藤 ゆきな(家庭科専科)	

この研究紀要に収録されている授業記録は、次のような約束にもとづいて記載されています。

↓ 複式学級の低学年を表す  
 60C<sub>2</sub> C:児童 T:教師  
 ↑ 児童を表す番号  
 その時間の発言の通し番号

---

平成12年6月8日 印 刷

平成12年6月8日 発 行

発 行 所 島根大学教育学部附属小学校  
〒690-0882 松江市大輪町416-4 (TEL 21-2471)  
U R L <http://www.chidori.shimane-u.ac.jp>

印 刷 所 (有) 黒 潮 社  
松江市向島町182-3 (TEL 21-3409)

---